

有松・鳴海絞や七宝、三州鬼瓦を題材に



有松・鳴海絞の豆絞り生地で作ったブース

ラボ展の一つとして参加した。テーマは「映える」。現代の俗語「バエル」と従来の「はえる」の二つの意味を表現。学生の若い感性を生かして伝統工芸を切り取った作品を展示した。各産地と学生30人が協業し、テキスタイルコースが有松・鳴海絞、金属とガラスの2コースが七宝、工芸と彫刻の2コースが三州鬼瓦と、それぞれの素材や技法を生かして物作りした。

有松・鳴海絞では、染色メーカーの張正が復元した「豆絞り」をテーマに取り組み。豆絞りの不良反(B反)にスクリーンプリントなどの後加工で柄を組み合わせた生地や作品を出展した。七宝は産地にある「しがかり品」と呼ばれる物作り途中でやめた在庫品を使用。これに再加工を施すほか、別の七宝品を組み合わせるなどしてオブジェやインテリア小物を作った。

三州瓦では、瓦の土を1100度の高温でいぶしてできる銀色の特徴。「通常は光沢があるが地面につく部分は光沢が無い。この対比の面白さもアート作品作りで生かした」という。

KOUGEI・EXPOは経産省や伝統的工芸品月間推進会議などの主催により全国各地で行っている展示会。全国の伝統工芸品が紹介されたほか、愛知県での開催を受けて有松・鳴海絞や常滑焼、名古屋仏壇、名古屋黒紋付き染めなどの県下の各業界がブースを置き、作品のほか実演なども行った。また、若手職人作品展や日本伝統工芸士作品展なども開かれた。学生コラボ展は同大学のほか、名古屋芸術大学、愛知県立芸術大学、国際ファッション専門職大学がそれぞれ作品を紹介した。

名古屋芸術大学は、名古屋で開催された「第38回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」(KOUGEI・EXPO)に学生コ